

にんじんの栽培

あかねシリーズ



1) はじめに

人参はセリ科に属し、アフガニスタンが原産とされています。あの赤い色の正体は活性酸素の増加を防いでくれるβ-カロチンの色です。シチューや煮物としてはもちろん、生のままサラダやジュースにしても美味しくいただけます。またお菓子作りなどアレンジ次第で活躍の場が広がります。直売所などで年間を通して欠かすことのできない重要品目の一つです。

2) 品種の選定

初・福・紅の“あかねシリーズ”は春・夏兼用種として適応性の広い品種です。一般地での夏まき(7~8月)栽培、西南暖地での秋まき(9~10月)栽培、冬まき(11月)のトンネル栽培、春まき栽培(冷涼地4~5月、一般地3月)が可能です。また『夏あかね人参』は一般地での夏まき(7~8月)・冬採り(11~翌年3月)が可能な品種、『春あかね人参』は一般地の年内、早春まきトンネル栽培、春まき露地栽培が可能な品種として注目です。

※センチュウ、軟腐病が多発する場合には連作を避けましょう。

栽培型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
F1 初あかね													冷涼地
F1 福あかね													
F1 紅あかね													
F1 夏あかね													
F1 春あかね													

3) 圃場準備

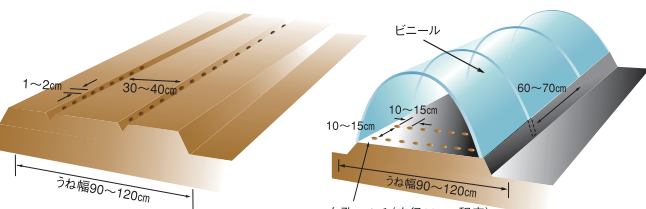
肥よくな砂質土壌が最も適しています。特に酸性には弱く、生育の遅れや葉色が悪くなる原因となりますので、pH値5.5~6.5に調整しましょう。土壌水分は、乾燥すると発芽不良となるばかりでなく、形や色などの品質低下を引き起こします。また過湿になれば根腐れの原因となるので、深耕や破土、土壌改良材など投与して保水・排水対策を心掛けましょう。

4) 施肥

元肥7割、追肥3割を目安としますが、前作の残肥があれば元肥を抑えた土作りをします(10a当たりN20~24kg・P15~20kg・K15~20kgを施します)。初期に肥料切れで生育につまずきがあると品質低下の原因となり、着色も悪くなるので生育初期から肥料を効かせましょう。

5) 播種

露地栽培(条まき)



【露地栽培】

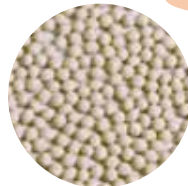
一般露地で7~8月に播種(発芽適温は15~25℃)します。粘土質の土壌であれば状況に応じて高畝として幅90~120cmの畝を立てます(砂質土壌であれば平畝)。確実に発芽させるためには整地した圃場に十分に底水を張り、5~10mmの一定の深さに播種溝を作ります。コート種子の場合は条間30~40cm・株間5~8cmに2~3粒づつ播種します。(裸種子の場合は1~2cm間隔に条まき)その後覆土して軽く鎮圧し種子が流れない程度に灌水します。

※播種後の蒸散を防ぐためモミガラやワラクスで軽く覆うか、寒冷紗などを掛けることも有効です。

【トンネル栽培】

温暖な地域での冬季に栽培可能な作型です。土壌条件は露地栽培と同様で、幅90~120cm畝を立てます(砂質土壌であれば平畝)。条間・株間共に10~15cm間隔で1穴に2~3粒を播種し、1cm程度に覆土して軽く鎮圧します。その後60~70cmの間隔にトンネル支柱を立て春先までビニールを被覆し保温します。また有孔マルチを併用することにより、更に生育を促進できます。

ニンジンの種子



コート種子



裸種子(毛除)

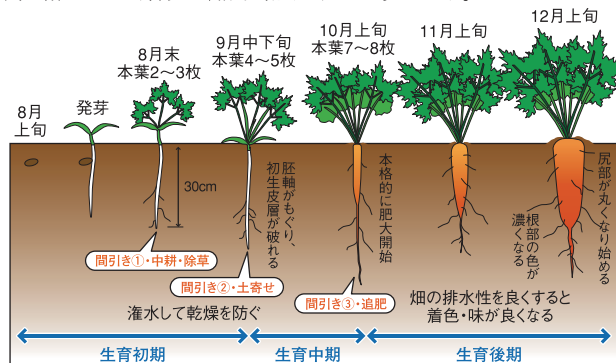
※コート種子は裸種子に比べて発芽に多くの水分を必要とします。一度吸水した後に乾燥すると硬化して発芽できなくなるので、播種後の土壌水分を切らさないように適宜灌水しましょう。

6) 栽培

生育初期(播種後30日頃まで)は雑草などに比べて遅いので、早めに除草を兼ねて中耕し、土壌の通気性・透水性を維持します。条まきの場合、本葉2~3枚の頃に健全な株を残して1回目の間引き(2~3cm)をします。

生育中期(播種後50日・本葉4~5枚)に株間を定めながら2回目の間引き(6~10cm)と、株元に軽く土寄せをすることで風による胚軸の傷みを防ぎます。またN(窒素)が多いと葉の生育が旺盛になりすぎ、短根や尻細の原因となるので、追肥は控えましょう。

生育後期(播種後60日・本葉7~8枚)になると本格的に肥大が始まり、肥料の吸収が盛んになります。この時期までに1本立ちにしますが、最終間引きに併せて追肥(乾燥時には液肥が有効)してスムーズな生育に努めます。また根首部が地上に露出すると日焼けして青や紫に変色して品質が落ちるので、株元の露出を防ぐように土寄せします。



7) 収穫

品種と作型により異なりますが、五寸人参の場合には105~120日程度で肥大が完了し、根の色が濃くなり、尻部が丸くなります。根長が18cm前後・根重200g前後で収穫となります。この時期を過ぎてしまうと裂根して品質を損ねます。

8) ポイント

- 夏場の無理な早まきはセンチュウ被害や立枯病、奇形の原因となるので栽培適期を守りましょう!!
- 遅まきは抽苔や温度不足による着色不良の原因となり、栄養価も下がります!!
- 発芽の揃いは後の収穫物の秀品率や収量に大きく影響するので、播種後の水管理は重要です!!
- 肥大完了後の追肥や寒肥は裂根の原因となるので注意します!!